

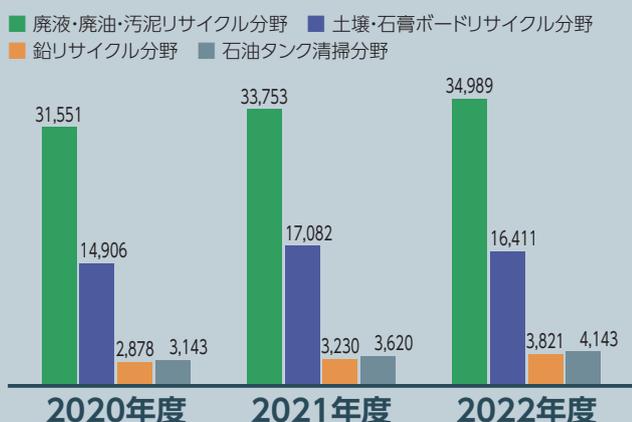
# ダイセキグループの各事業業績

ダイセキグループでは環境保全、資源循環、脱化石燃料の価値を生み出すことを念頭にグループ各社で事業を進めています。ここでは4つの分野(廃液・廃油・汚泥リサイクル分野、土壌・石膏ボードリサイクル分野、鉛リサイクル分野、石油タンク清掃分野)に分けて、それぞれの業績と取り組みを説明します。

※2023年3月にダイセキ環境ソリューションがM&Aをした杉本商事と杉本紙業は来期から含めます。

## 連結売上高

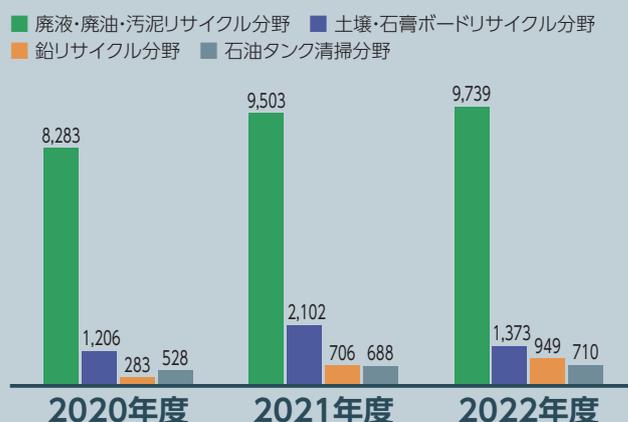
単位：百万円



(注)廃液・廃油・汚泥はダイセキと北陸ダイセキ、土壌・石膏ボードはダイセキ環境ソリューションとグリーンアローズ中部・グリーンアローズ九州、鉛はダイセキMCR、石油タンク清掃はシステム機工の情報をそれぞれ記載。

## 連結営業利益

単位：百万円



### プラス要因

#### Strength (強み)

- 優れたビジネスモデルによる利益率の高さ
- リサイクル率の高さ
- カーボン・ニュートラルへの貢献
- 全国に展開するネットワーク
- 幅広い取扱品目
- 解釈が難しい廃掃法に関する知識
- 災害発生時の緊急対応能力の高さ
- 廃液や廃油の浄化による環境保全への貢献

内部要因

### マイナス要因

#### Weakness (弱み)

- サーキュラーエコノミーをまだ主力事業にできていない
- 事業範囲が国内のみであり、まだ海外展開できていない
- 海外メジャーと比べると事業規模が小さく、事業範囲が限定的

#### Opportunity (機会)

- カーボン・ニュートラルを求める顧客の増
- 資源価格高に伴うサーキュラーエコノミーの必要性の高まり
- 国際社会の生物多様性、水循環への関心の高まり
- 廃掃法の規定による国内の廃棄物処理業の参入障壁の高さ

外部要因

#### Threat (脅威)

- 国内製造業の停滞に伴う国内産廃市場の縮小
- カーボン・ニュートラルの規制強化に伴うエネルギーコストの増大
- 厳格な廃掃法の規定、及び自治体ごとに異なる廃掃法の解釈による事業を拡大するうえでの障壁

## グループ会社各社の紹介

### ダイセキ環境ソリューション

代表取締役社長 山本 浩也

土壌分野では土木工事から発生する汚染土壌の浄化とリサイクルを行っています。リサイクル土壌は建築資材やセメント原料として利用されています。石膏ボード分野では、解体現場で発生する石膏ボードを回収、分離して、再生石膏ボードや再生紙等の原料としてリサイクルしています。

今後は、首都圏、中部圏、近畿圏の大規模工事案件の着実な遂行、川上営業やコンサルティング営業強化を図ります。2023年5月に廃石膏ボード工場の処理施設を増強しました。石膏ボードリサイクル事業のさらなる事業拡大も進めていきます。



### ダイセキMCR

代表取締役社長 本郷 忠史

ダイセキMCRでは廃バッテリーを回収、分離、熔解・精錬して鉛インゴットにリサイクルしています。鉛インゴットはバッテリーメーカーで利用されています。当社ではお客様からのニーズに応じて温室効果ガス排出量削減に注力しています。鉛の熔解工程で多量のCO<sub>2</sub>を排出することを考慮し、2014年にコークスの代わりにLNGを使うことで導入前と比べて排出量を約60%削減しました。さらに2022年3月からカーボン・ニュートラルLNGを導入しました。

今後はさらにカーボン・ニュートラルとサーキュラーエコノミーに貢献できるビジネスを展開していきます。



### システム機工

代表取締役社長 田中 経保

システム機工では、石油タンクやタンカー内貯槽の洗浄工事等を行い、タンク内に堆積した原油スラッジを回収しています。洗浄工事の技術と体制は国内外でトップクラスの評価を受けています。

従来は大型の石油タンクを主なビジネスの対象としていましたが、現在はダイセキと連携して、製造業の工場にあるタンクも対象としています。グループのシナジーをさらに強化させていきたいと考えています。



### 北陸ダイセキ

代表取締役 三島 克也

北陸ダイセキでは、コンクリート製品の離型剤、特殊工作油や切削油及び工業用潤滑油、金属部品や機械の錆を防ぐ防錆剤等を製造販売しています。また廃油を収集し、その成分・性状に応じて加工油等に加工し、廃油のリサイクルを行っています。廃油リサイクルはダイセキの創業時から長く取り組んでいるものですが、今でいうサーキュラーエコノミーの先駆的なものであったと思います。限りある資源を活かして使うことを理念として、さらなる事業の活性化とグループ連携に取り組んでいきたいと考えています。

